

平成 28 年度 第 1 回よっちゃんばれ放談会 要旨

日 時	平成 28 年 9 月 28 日 (水) 午後 6 時～午後 8 時
会 場	甲府市役所 4 階 本部長会議室
参 加 者	観光関係者 (10 名)
市出席者	市長、岸川副市長、産業部長、産業総室長、観光商工室長、観光課長、開府 500 年事業計画課長、リニア政策課長、都市計画課長、生涯学習文化課長、協働推進課長
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 市長あいさつ 3 意見交換 4 まとめ 5 閉会
意見交換	
観光課長	<p>それでは、意見交換会に入りたいと思います。</p> <p>はじめに、皆様からご意見をいただきたいと思いますので、お一人様 2、3 分程度で、ご発言をお願いいたします。放談会ですので、ざっくばらんに発言していただきたいと思います。</p> <p>次に、全員からご意見等をいただいた後に、皆様からのご意見を整理させていただき、本日設定した 6 つのテーマごとに、10 分を目安に意見交換会に入らせていただきたいと思います。</p> <p>最初に、参加者 A さんから、時計回りに順次お願いいたします。</p>
参加者 A	<p>まずは、甲府市の良さを知ってもらうことが大切であり、なかでも若い世代や、その親の世代に対して、旅行先に甲府市を選んでもらう方策を考えていく必要があると思います。また、イベント誘致についてですが、例えば諏訪湖温泉では毎年、ラージボール卓球大会を開催しています。ラージボール自体はメジャーな競技ではありませんが、ラージボールといえば諏訪湖温泉といった感覚が競技者の中で根付いており、毎年多くのリピーターが訪れていますので、甲府でも何か大会のようなものを開催できないかと思います。また、甲府といえばワインやリニアなど多くの観光資源がありますが、リニアが開通するまで、まだ時間がかかりますので、それまでの間、甲府の魅力を満喫できる方策について、意見交換できたらと思います。</p>

観光課長	次に、参加者Bさん、お願いいたします。
参加者B	<p>甲府には、観光の素材が豊富にあり、それらの活用については様々な機会に議論されていますが、果たして、観光客の要望に沿った整備をしているのかどうか疑問に感じることがあり、もう少し目に見える形でPRしていかなければならないと思います。</p> <p>私は、2年位前に神奈川県藤沢市の観光協会の方と意見交換を行ったことがあります。その時に甲府の観光地として湯村温泉のことを話しましたが、藤沢市の方は湯村温泉について認識がなく、また私も湯村温泉の魅力を十分に伝えることが出来ませんでした。藤沢市では、近隣に江ノ島や鎌倉などの日本有数の観光地があることから、観光インフラ整備に多額の予算をかけているようですので、甲府市も箱物行政と言われるかもしれませんが、それを恐れずに優先順位をつけていただく中で、もう少し、予算をかけていただきたいと思います。</p>
観光課長	次に、参加者Cさん、お願いいたします。
参加者C	<p>現在の甲府市の観光行政を取り巻く環境については、1年後には中部横断自動車道が清水まで開通し、3年後には開府500年を迎え、4年後には東京オリンピック・パラリンピックが開催され、5年後には信玄公生誕500年を迎えます。更には、少し先になりますが11年後にはリニア中央新幹線東京 - 名古屋間の開業など目玉となる大きなイベントが多数控えています。今後は少子高齢化や人口減少など多くの課題がありますが、行政と民間が一体となって、観光客をどのように受け入れ、増やしていくのかを考えていかなければならないと思います。</p>
観光課長	次に、参加者Dさん、お願いいたします。
参加者D	<p>私が東京の案内所に勤務していたときに、観光商談会で県外の方から山梨や甲府の魅力は何ですかと聞かれ、山梨はフルーツ王国であり、甲府には湯村温泉がありますと答えたことがあります。果たして湯村温泉はどこまで認識されているのかと思ったことがあります。湯村温泉の振興策として、すぐに実現出来そうなことは、自然・温泉・癒しを取り入れながら昇仙峡とのタイアップなどを考えておりますので、皆さんの考えを伺いたいと思います。</p>
観光課長	次に、参加者Eさん、お願いいたします。

参加者E	<p>昇仙峡は県内一の観光地であり、古くから皆さんに親しまれているイメージがありますが、最近では、昇仙峡はどこですか？とか何時から入れますか？といった問い合わせが多く、昇仙峡という名前は知っていても中身を知らない方が増えています。また、昇仙峡といえば、仙娥滝や覚円峰が有名ですが、これだけでは太刀打ちできません。奥に行けば板敷溪谷や金櫻神社など、まだ知られていない見所がたくさんあります。私たちとしましては、これらの奥昇仙峡への集客を増やすため、ほうとう祭りや水晶祭りなど四季を通じて楽しめるイベントを開催しておりますが、集客のためのPR方法が課題となっております。</p>
観光課長	<p>次に、参加者Fさん、お願いいたします。</p>
参加者F	<p>甲府市の平成27年度の観光入込客数は約315万人であり、前年と比べて1割の増加となっておりますが、大切なことは観光客のみなさんにどのように満足していただくかであると思います。そのためには、一つの観光施設だけではなく、交通網や宿泊施設、土産店などの整備などが必要であり、そこに携わる方々の現場での連携・交流が必要ですので、本日意見交換ができればと思っています。また、甲府には数多くの観光資源がありますが、県外の方に認識されていない部分がありますので、ターゲットを絞った観光誘致を行っていきたいと思います。また、多くの観光客の方は、観光する際に口コミやSNSを利用していますので、来ていただいた方に満足していただき、それを発信してもらえるように取り組んでいきたいと思います。</p>
観光課長	<p>次に、参加者Gさん、お願いいたします。</p>
参加者G	<p>私は甲州夢小路内で営業しておりますが、一点目としては開府500年事業を盛り上げていくために、行政や他の企業とどのように連携していくかということです。二点目としては、葡萄は甲府市にとって重要な資源であり、勝沼では車で回っても相当な時間がかかるところを、甲府ではワイナリーなどを半日で回ることができるため、観光客の皆さんに甲府の価値を再認識していただけるような取り組みが必要であると思います。三点目としては、甲府駅前の観光案内所からお客さんを紹介していただいておりますが、その反面、私たちからは何の行動も起こしておりませんので、連携が図れたらと思います。</p>
観光課長	<p>次に、参加者Hさん、お願いいたします。</p>

参加者H	<p>観光業は、これから伸びる産業であり、多くのお客様を呼び込み、お金を落としてもらうことにより、地元も潤い、市も税収が増えるという良い循環が生まれますので、観光に力を入れる必要があると思います。そのためには、駐車場や道路などのインフラ整備や舞鶴城周辺の動線のデザインが必要です。また、若い世代が起業しやすい環境づくりなどが大切ですので、それらに伴って甲府市のバックアップも必要だと思えます。</p>
観光課長	<p>次に、参加者Iさん、お願いいたします。</p>
参加者I	<p>私は、昇仙峡、武田神社、甲斐善光寺などで観光ボランティアガイドをしていますが、数年前に「花子とアン」がブームになった時に、お客様を甲府駅北口からサドヤ、英和中学・高校へご案内した折のこと、先頭を行く私が市民の方に挨拶をすると市民の方が挨拶を返していただき、それがお客様の行列の最後尾まで伝わり、あとでお客様から口々に「さわやかな町ですね」との感想をいただきました。</p> <p>要するに、「観光は人」であると感じておりますので、人を育て明るいまちづくりをすることで、「人が来る」、「人が住みたくなる」まちになっていくものと思えます。</p>
観光課長	<p>次に、参加者Jさん、お願いいたします。</p>
参加者J	<p>私は以前に報道の仕事をしていましたが、情報発信はとても難しいことだと思います。私が最近聞いた話ですが、外国人観光客が甲府のゲストハウスを拠点に長期滞在し、晴れば、富士山や長野へ。雨が降れば、東京、あるいは甲府で過ごす。甲府は東京や富士山、日本アルプスに近くて、滞在コストの安いことから最高の滞在拠点となっています。このため、観光情報を発信することも大切ですが、観光客に観光資源を見つけてもらうことも大切であり、彼らが見つけた観光資源を私たちがどのように再認識していくかが大切であると思えます。</p> <p>また、私は、今年の2月にオーストラリアのメルボルンで山梨県のPR活動をしてきましたが、会場には約4万人が訪れ、私たちのブースも大盛況でした。オーストラリアの人たちの、山梨に対する関心の高さが伺えました。このように山梨に住んでいるとなかなか自分たちの魅力には気づきにくいけれど、他県や外国の方に魅力を見つけてもらい、それを私たちが再認識することが大切だと改めて思いました。</p>
観光課長	<p>皆さんありがとうございました。それでは、ここで休憩とりたいと思います。</p>

観光課長	<p>それでは、意見交換会を行いたいと思います。冒頭にご説明させていただきましたが、ここからはテーマごとに意見交換を行っていただきたいと思います。お手元の資料をもとに、まずは昇仙峡・湯村温泉郷の観光資源、歴史資源の活用について、どなたかご意見ありますでしょうか。</p>
参加者B	<p>さきほども申し上げましたが、私たちの中では湯村温泉郷は甲府を代表する観光地であるといった認識がありますが、温泉郷というイメージは正直ありません。例えば、日本を代表する温泉地である草津温泉は湯畑といった象徴的な場所があり、温泉情緒もある。しかし、湯村温泉郷には温泉情緒はなく、ホテルや旅館の運営も厳しいと聞いていますので、温泉情緒を出すために、行政としても観光の予算だけではなく、都市整備や土木面の予算も確保して、例えば、遊歩道や案内板など、湯村温泉郷への支援・整備が必要だと思います。</p>
参加者J	<p>私は、まだ湯村温泉に入ったことがないのですが、温泉の質や湯量はどうですか。</p>
参加者D	<p>湯村温泉は各旅館で源泉を持っておりますし、泉質はなめらかで、肌に良いことから美人の湯とも言われています。</p>
市長	<p>太宰治の奥さんが、湿疹の治療のため湯村温泉に入ったと言われておりますから、肌に良いのだと思います。</p>
参加者J	<p>日帰り入浴も出来ますか。</p>
参加者D	<p>はい。湯村温泉旅館協同組合で温泉手形を作りまして、湯めぐりができるようになっています。</p>
参加者J	<p>外国人の方も来ますか。</p>
参加者D	<p>全体の数パーセントですが、欧米の方が多く、長い方で2、3泊される方がおり、先ほどJさんがおっしゃられたように甲府を拠点にして、様々な観光地に出掛けているようです。</p>
参加者I	<p>甲府市民の方でも、甲府の観光地のことを知らない人が多いことが一つの問題だと思います。市民でも昇仙峡や湯村温泉郷に行く人は少なく、また、子どもたちが遠足に行くといった話もあまり聞いたことがありません。まずは市民の方々への呼びかけが大切ではないでしょうか。</p>

<p>市長</p>	<p>また、子どもは、将来観光客になる人たちです。甲府に来た子どもに、周りの大人たちが声をかけていくといったまちづくりが、必要だと思いません。</p> <p>市民・県民が自分たちの観光資源や地域資源を知り、外部に発信することは、非常に大切なことでもあります。例えば甲府五山は、甲府市自治会連合会などがツアーを組んで、訪ねて行って勉強しようという企画をしておりますので、今後も継続して取り組んでいただきたいと思います。また、湯村温泉郷はかつて30数軒あったホテルや旅館が、今では12軒になってしまいました。先ほどご指摘のあったハード面での整備は大切ですが、その前に何を行っていくべきかを優先順位を付け、官と民が連携しながら対応していきたいと思えます。</p> <p>昇仙峡は、70、80代の方はほとんど知っていますが、若い方にはあまり知られていないのかもしれませんが。このような中、最近ではレーズンサンドなどの銘菓や、夏に賑わいを見せているホテルのビアガーデン、また、昇仙峡のライトアップなど、今までになかった新しい取り組みが芽を出してきています。このような資源を取り入れ、支援しながら、3年後の開府500年事業や5年後の信玄公生誕500年事業に向けて、「500」をキーワードに、市民の方々に周知することも大切ですし、私たちも再度観光資源について勉強していきたいと思えます。</p> <p>また、3年後、5年後に来ていただいた観光客の方々が、10年後のリニア開通時に、甲府がより近くなるため、リピーターとして来ていただけるように取り組んでいきたいと思えます。</p>
<p>参加者C</p>	<p>甲府の観光といえば昇仙峡、武田氏、ぶどう、湯村温泉郷、ジュエリーなどが挙げられますが、それぞれに付随した宣伝をしていけば効果が出てくると思えます。例えば、「昇仙峡に行って湯村温泉に泊まる」というように昇仙峡と湯村温泉郷をリンクさせて宣伝すればいいと思えます。また、富士山が世界文化遺産に登録されたことから、「富士山と甲府」といったリンクも効果的であると思えます。</p>
<p>参加者J</p>	<p>昇仙峡と湯村温泉郷は、いままで連携していなかったのですか。</p>
<p>参加者E</p>	<p>はい。</p>
<p>参加者J</p>	<p>なぜですか。</p>
<p>参加者E</p>	<p>それぞれ別々のものといった意識があったような気がします。現在は、</p>

	<p>お互いに手を取り合わないと言っていけないというのが現状ですが、昇仙峡に行って湯村温泉に泊まる。また、その逆のルートを考えていかなければならないと思っています。</p>
参加者 J	<p>昇仙峡の観光客は減っているのですか。</p>
参加者 E	<p>私が入社した頃は、年間で400万人の観光客が来ましたが、現在は年間200万人で、ここ5年は横ばいの状況です。ただ、秋の紅葉の時期に観光客が集中しますので、駐車場の問題が生じますし、それ以外の時期は観光客が大幅に減ってしまうのが課題です。</p>
参加者 D	<p>湯村温泉郷につきましては、2007年に大河ドラマ「風林火山」が放映された時に年間22万人の宿泊がありました。現在は年間14万人程度です。その時宿泊されたお客様の印象は、歴史的な景観があるといった意見が多かったのですが、実際に塩沢寺を訪れた方が、道幅が狭く交通量も多いため、危険な思いをしたといった話を聞きましたので、「車がゆっくり走る」ような、周辺道路の整備をしていただければ、宿泊客も増えるのではないのでしょうか。</p>
参加者 B	<p>やはり、湯村温泉郷単独では集客に限界がありますので、連携が大事だと思います。私が今日観光案内したお客様は、湯村温泉ではなく石和温泉に宿泊すると言っていました。なぜ湯村温泉でないのかと思うことがあります。</p>
参加者 J	<p>湯村と石和の違いはあるのですか。</p>
市長	<p>歴史が違います。湯村は1200年の伝統がありますが、石和は昭和30年代からです。</p>
参加者 I	<p>湯村温泉は歴史や伝統を守ってきた経過がありますし、石和温泉は歓楽的な要素を取り入れてきた経過があると思います。</p>
参加者 B	<p>湯村温泉は歴史や伝統を守ってきたことや温泉の泉質が良いことを我々は理解していますが、それをどのように「見せるか」が大切です。自己満足ではなく、皆さんに分かっていただける取り組みを具体的にしていかなければ、発信が難しいのではないのでしょうか。</p>

参加者 J	湯村温泉には PR する余力はないのでしょうか。
参加者 B	現在は SNS が普及しており、以前のように宣伝広告費などはかからないかもしれませんが、宿泊客が減少していることから、厳しいと思います。
参加者 F	私もインターネットを通じて、湯村温泉の紹介をしたことがありますが、温泉組合のサイトにわかりづらい箇所がありますので、市のバックアップも必要かもしれませんが、その部分だけでも修正していただければ、私たちも一層紹介しやすくなると思います。
参加者 B	湯村温泉郷の外湯は営業していますか。
参加者 D	していません。
参加者 B	外湯のように歴史があり、宿泊客が訪れる場所が営業していない状況は、好ましくありません。湯村温泉郷だけの力だけでは限界がありますので、行政も含め皆さんの応援が必要だと思います。
参加者 J	いつから、閉鎖されているのですか。
参加者 D	10 年くらい前からです。
参加者 B	地元の方々も、「外湯を復活させたい」と、いろいろ考えているのではないかと思いますので、皆さんで応援が必要だと思います。
参加者 J	日頃から、皆さんで湯村温泉に入ったらどうでしょうか。先ほど F さんがおっしゃったように、紹介するとき、インターネットの画面を見せるよりも、実際に入った感想を話す方が効果的でコストもかからないので、私もこれから定期的に入りたいと思います。甲府のよさは、湯村温泉郷や昇仙峡など近いところに観光地があることだと思いますので、お互いを知るといったことが大切だと思います。
参加者 C	外湯にしても、問題なのは、やはり運営管理費の捻出だと思います。
参加者 B	しかし、それを放っておいたら何の改善もできないと思います。現在、湯村温泉郷を浴衣で歩く人はほとんどいませんので、浴衣で歩けるような温泉街の魅力を取り戻す取り組みが必要ではないでしょうか。

参加者H	先ほどの話で、湯村温泉は美人の湯であるといった意見が出ました。また、最近では、トレッキングをする若い女性が増えていますので、例えば、それらを組み合わせて、若い女性にターゲットを絞ったPRが必要だと思います。
観光課長	ありがとうございました。それでは次のテーマであります、効果的なプロモーションと新ツアー等に入りたいと思います。多くの観光客の皆さんに来ていただくには、甲府市をどのように売り込んでいけばよいか、意見交換を行っていただきたいと思います。
参加者G	山梨県は戦国時代や侍に注目し過ぎている気がします。先日、外国人のツーリズムを行いました。皆さんが興味を持ったのは、縄文時代でした。外国人にとって、縄文人が住んでいた地域には美味しい物があるといった認識があり、その生活様式に興味があるようです。また、人類の歴史から見れば、侍はつい最近の事であり、縄文時代は長い間続いた経過がありますが、侍と縄文時代の両方が楽しめるのは甲府の強みだと思います。
参加者J	縄文時代は甲府のどこで体験できますか。
市長	甲府の南部にある中道地区などで体験が出来ます。
参加者B	<p>この間、東京ビックサイトで開催されたツーリズム・エキスポ・ジャパンに初めて行ってきましたが、山梨県のブースの隣は箱根町のブースでしたが、箱根町のブースの飾り付けやプロモーションは素晴らしかったです。</p> <p>この展示会は4日間で約18万5千人の方が訪れますので、このような機会に積極的にPRしなければならないと思いました。また、甲府市は3年後に開府500年を迎えるため、費用もかかるかもしれませんが、来年からは山梨県のブースを一部借りるなどして出展したほうが良いと思います。</p>
参加者J	日本では最大のイベントですか。
参加者B	そうだと思います。ピーク時は人のすれ違いも困難なほど賑わっていました。
参加者J	海外の方もいらっしゃいますか。
参加者B	はい。3分の1くらいは外国人だと思います。

参加者A	やり方次第だとは思いますが、海外を含め旅行業界の関係者が多く来場しますので、効果的だと思います。
参加者B	山梨県立大学の学生さんたちも山梨県をPRしていました。
参加者J	イベントの情報は、行政の皆さんとはシェアしないのですか。
参加者A	旅行業界から行政へのアプローチが少ないのかもしれませんが、逆に言えば出展希望が多すぎて、ブースが足りないのかもしれませんが。
参加者I	知恵とお金を使う必要があるのですが、やはり、ターゲットを絞ってPRしていくことが大切だと思います。例えば、以前に山ガールという言葉が流行ったように、若い女性が昇仙峡を散策して、湯村温泉に入るといった、観光地それぞれの連携が必要だと思います。
参加者B	ツーリズム・エキスポ・ジャパンでは、桃娘やぶどう娘がいて、山梨県の方かと思いきや他県のブースの方でした。
参加者I	私たちは桃やぶどうといえば山梨県という認識がありますが、世間の方々は必ずしもそのように思っていないということですね。
参加者J	旅行者の方にとって、効果的なプロモーションは何ですか。
参加者A	やはりお客さんが集まらなければ商売になりませんので、どのような方法で人を集めるかということが大切だと思います。例えば、成長著しい中国・成都のテレビ局に甲府市の魅力を撮影してもらい、それを本国で放送してもらうといった取り組みを行えば集客に繋がりますし、旅行者とタイアップして、団体客を湯村温泉郷や昇仙峡に案内することもできると思います。兼清さんのご質問の答えになっていないかもしれませんが、プロモーションという視点で考えると100人全員に支持されるツアーを企画するよりも、その中の5人は必ず参加するツアーを企画したほうが効果はあると思います。
観光課長	新ツアー等について何かご意見ありませんか。
参加者C	プロモーションの観点になってしまいましたが、行政と観光事業者がタイアップして観光パンフレットを作ったらよいと思います。それには、市町村がそれぞれの観光パンフレットを作るよりも市町村間で連携して一つの

	<p>パンフレットを作ったほうが、観光客にとっても、観光情報を集中して見ることが出来ますし、その中に私たち観光事業者の情報を入れていただければ、広域的な宣伝活動や経費の削減にも繋がると思います。</p>
参加者 J	<p>甲府にもワイナリーがありますが、勝沼のワイナリーとの差別化を図るために何か取り組んでいますか。</p>
参加者 F	<p>山梨県ということを考えれば、勝沼のワイナリーと協力して、例えば1泊2日で両方を回っていただくといった取組もありますし、甲府ということで考えれば、私の会社でも新商品を開発するなどしていますが、単独ではなかなか厳しいものがあります。幸い観光客の数は増えていますので、そのお客様をどうやって近隣の観光地に案内していくのか、またどうやって連携していくのが課題です。</p>
参加者 J	<p>観光客が増えた理由は何ですか。</p>
参加者 F	<p>「花子とアン」が放映されたことや善光寺のご開帳などが考えられます。また、甲府市でも戦国BASARAとコラボしてPRしていますが、その甲斐あって、特に若い女性が増えています。戦国BASARAは熱狂的なファンが多く、そのような方々は、多くのお金を落としてくれるため、今後もターゲットを絞った戦略や連携を考えていかなければならないと思います。</p>
参加者 B	<p>甲州夢小路などでは、観光客に見せる工夫や仕掛けづくりを行っており、導線も整備されています。また、夢小路のように、仕掛けを作ってからPRすることが大切であり、そうしなければ観光地として定着しないと思います。</p>
参加者 I	<p>確かにそうだと思います。また、夢小路の店員さんは、観光客につきまとわないので、観光客が店に入りやすいですし、とてもさわやかな対応をしています。</p> <p>また、新ツアーのことですけれども、金櫻神社には樹齢千年を超える杉がありますが、杉に耳を当てると音が聞こえるといった情報がインターネットで流れ、多くの若い女性が訪れたと聞いています。このように、私たちでは考えもつかない情報で人を呼ぶことが出来ますので、若い方に情報発信をしてもらうことが大切だと思います。</p>
観光課長	<p>次に受入体制・人づくりに入りたいと思います。多くの観光客の皆さん</p>

	<p>に来ていただくには、どのような受入体制を整えていくのか、意見交換を行っていただきたいと思います。</p>
参加者C	<p>観光客を受け入れるにあたっては、受け入れる側である従事者の資質を高めることが大切です。従って、一つの事業者で研修を行うよりも多くの事業者が一堂に会して研修を行うことが大切です。また、例えば、甲府の旧町名の表示を行ったり、歴史を学ぶといった取組も必要だと思えます。ぜひとも行政主体で、市民への教育を機会あるごとに行っていただくと同時に、受入体制を整備するため事業者への研修会についても対応していただきたいと思えます。</p>
参加者B	<p>人づくりではないのですが、大きなイベントを誘致する時には、スポンサーが必要だと思えます。例えば、甲府でワインイベントを行うときには、市の予算だけでは難しいので、ワインメーカーにスポンサーになってもらうなど、観光分野でも検討していく必要があると思えます。</p>
参加者J	<p>いいアイデアだと思えます。このような企画を実現するためには、どこが主体になるのですか。</p>
参加者B	<p>山梨県で言えば、観光推進機構がそれに当たると思えます。甲府市には、そのような部署はないと思えますが、観光DMO（観光地域づくりを行う法人）などを立ち上げていく必要があると思えます。</p>
参加者J	<p>やはり個々で取り組むのではなく、連携が大切だと思えます。</p>
参加者B	<p>例えば、「歩道橋」にスポンサーを募集して、維持管理も任せればいいと思えます。</p>
参加者H	<p>私も以前、甲府駅北口のエスカレーターの前にある壁に会社の名前を付けたいと申し出たことがあります。補助金で建てた建物であることや管理者が複数あったりして実現しませんでした。確かに市としては、条例等の制限があるかもしれませんが、市の収入に繋がることなので検討していただきたいと思えます。</p>
市長	<p>今回の件を含めて、皆様から様々なご提案をいただいております。取り入れることが出来るものは、優先順位を決めて取り組んでいきたいと考えています。また、先ほど野崎さんがおっしゃられるように、観光で訪れる方には行政の境界は関係ありませんし、5年後の信玄公生誕500年事業について</p>

	<p>は、信玄公は甲府だけではなく山梨県の英雄ですので、行政の境界を超えた連携を考えていきたいと思ひます。</p>
参加者C	<p>開府 500 年事業はどのような手法で宣伝、開催するのかが非常に重要ですので、例えば JR とタイアップするなど早めの対応をお願いしたいと思ひます。</p>
市長	<p>開府 500 年事業は、まさに「甲府の歴史」ですので、まず私たちが甲府の歴史を再確認しなければならないと思ひます。今年、「小江戸甲府の夏祭り」を初めて開催しましたが、今後もずっと続けていきたいと思ひます。そこで、なぜ「小江戸」なのか、更には、なぜ「夢小路」、「湯村温泉」なのか、しっかりと市民の皆さんにお伝えしながら、優先順位を付けて取り組んでいきたいと思ひます。</p>
参加者D	<p>旅行業者から、湯村温泉や昇仙峡へ行くことを条件に、バス代金を補助する制度があればといった話を聞きますので、参考にお伝えします。</p>
市長	<p>ふるさと納税との関係もあると思ひますが、参考にさせていただきます。</p>
参加者H	<p>旅行業者、観光業者の間では、通常、手数料の支払いがあります。私どもでは手数料を支払っていませんが、手数料を支払ったとしても、果たしてそれがリピートに繋がるのか疑問ですし、これからは、私たちが自力をつけなければならないと思ひます。</p>
参加者G	<p>甲府駅周辺にはフルーツを買える店が少ないため、山梨県は JR を利用して訪れる旅行者に優しくないといった意見を耳にします。岡山駅ではフルーツを買える店がたくさんあるそうです。また、北口のよっちゃばれ広場ではビールイベントを開催していますが、ビールは対象者が限られてしまうため、甲府ならではのフルーツイベントを開催したほうがいいと思ひます。</p>
参加者B	<p>甲府は宝石のまちと言われており、観光パンフレットにも記載されていますが、どこに行けば宝石があるのかわかりません。例えば宝石ストリートや宝石店が集積しているなど、観光客に見せる工夫が必要だと思ひます。</p>
市長	<p>ジュエリーミュージアム、かいてらすやアリア・ディ・フィレンツェなど、宝石を楽しむ箇所はあるのですが、PR が足りないのかもしれない。</p>

観光課長	<p>貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。予定していた時間となりましたので、意見交換会を終了させていただきます。</p>
まとめ	
市長	<p>本日は、長時間にわたり、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。観光に携わる方々の連携も大切ですが、民間と行政の連携がいかに大切であるか改めて感じました。</p> <p>本日皆様からいただきました貴重なご意見は、しっかりと受け止め、様々な角度から検証し、3年後の開府500年事業や4年後の東京オリンピック、パラリンピック、5年後の信玄公生誕500年事業などの施策に反映させながら、市民の皆さんの目に見える形で、観光をはじめ市政の推進に当たってまいりたいと思います。</p> <p>最後に、皆様から貴重なご意見をいただきましたことに重ねて御礼申し上げます。私の挨拶にかえさせていただきます。</p> <p>本日はありがとうございました。</p>